

## 第1回 寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議

日時：平成25年8月9日（金）15：00～

場所：寝屋川市役所議会棟4階第1委員会室

### 1. あいさつ

部長 開会のあいさつ

### 2. 会員等の紹介

各会員 自己紹介

事務局 自己紹介

### 3. 案件

#### (1) 寝屋川市産業振興に関する連絡調整会議について

(会長)

この連絡調整会議の設置目的についてご説明させていただきます。

平成25年4月に施行しました、「寝屋川市産業振興条例」の第13条に「市長は、産業の振興に関する取組の進捗状況について、市民、事業者、産業経済団体、教育・研究機関、消費者等と意見を交換する場を設けるものとする。」と定めております。これに基づき、今回の会議の設置要綱を制定しました。

条例を制定して今後市としてどうしていくのか、条例のこれからを見守っていきながら、この条例が時代の経済状況などに適合しなくなった場合は、審議会を設置し、条例改正を検討することになります。この連絡調整会議はその前段階として、各分野の皆様には様々な意見を頂く場にしたいと考えています。

市の施策として産業振興を進めていく中で、事業者及び学校法人等それぞれの取組について情報提供いただくとともに、それぞれ単独では実施が難しい取り組みも複数の分野が「オール寝屋川」で産業振興に取り組むことにより、市内産業の活性化につなげていければと考えております。条例の基本理念である「連携・協働」という考えの下、お集まりいただいた皆様には、一緒になって市内産業の

活性化に取り組んでいただければと思っております。年2, 3回の会議の中で、情報交換や各分野のマッチング等、より実態のある形で産業振興を進めていきたいと思っております。

議論が一つの方向へ収れんするのは、会員数や所属されている分野の範囲からみても難しいかもしれませんが、その時々で皆様方の課題や寝屋川市に対するご意見を頂ければと思っております。

## (2) 産業の振興に関する取組の進捗状況について

(事務局)

平成25年度に新たに取り組んでおります、産業振興に関する市の施策について、商業・工業・農業の各分野の担当からご説明させていただきます。

(配布資料に基づき説明)

ご意見、ご質問などありましたらお願いいたします。

(会員)

(施策の説明に関して) 少し抽象的な感じがしましたが、モノづくりに関する国の緊急経済対策の補助制度について、具体的にどのような技術に対して補助が採択されたのか教えていただきたい。また、その中でも汎用性のある、今後成長が見込まれる事業はあるのでしょうか。

(事務局)

今回採択された事業につきましては、金型作製時のコストダウンの確立や金型寿命を延長する複合表面層の開発等となっております。今後成長が見込まれる事業について、専門的なことは分かりませんが、市が派遣している経営支援アドバイザーが継続して支援を行う中で、特徴的な技術を持った事業所には、積極的に補助金の申請等の呼びかけを行っています。また、申請書類の書き方についても支援しています。

(会員)

国の補助を得た事業の権利(著作権等)は、企業側が有するのですか。

(事務局)

はい、権利は企業が有することになります。

(会員)

5月に開催された「ねや川バル」について、消費者協会会員の中でも知らない人がいた。当日のぼりを持って歩いているだけの人を見かけたが、秋に開催される際には、周知・啓発方法を一般的に分かりやすくお願いしたい。

(会長)

バルの開催については、広報活動に関しても市がバルの実行委員会に対し支援を行っています。また、のぼりを持って歩いていたのは、「バルサポーター」と言いまして、ボランティアとしてご協力いただいている学生の方かと思われます。地域のにぎわいに関する貴重なご意見として、秋のバルに活かしていきたいと思えます。ありがとうございます。

また、先ほど事務局より説明がありました施策のほかにも、「雇用創出事業」としまして、枚方・交野・寝屋川の三市合同就職面接会を毎年実施しており、今年は寝屋川市主催で10月25日に市民会館にて開催します。学生から高齢者まで参加されている面接会であり、産業振興室として雇用の拡大にも取り組んでおります。

また、消費生活行政については、産業振興室の所管ではありませんが、今後は消費生活センターでの取組を紹介させていただきたいと思っています。

寝屋川市全体のまちづくりに関しては、産業振興及び雇用面についても活性化につながる取り組みであります。寝屋川市東部及び密集市街地のほか、再開発など、寝屋川市全体のまちづくりに関しても、今後情報共有を行っていききたいと考えております。

(会員)

先ほど「香里園バル」が開催されるとのことだったが、寝屋川市全体として特に高齢者にとって、イベント開催時、公衆衛生面で言うとトイレが少ないと感じる。人がたくさん集まる公共の場所には利便性の点からもトイレが必要なのではないか。

また、環境面で言うと、河川の水域について水利権問題もあるが、どこからどこまでが寝屋川市の管轄なのか。例えば生物を放流するイベントを企画しても、どこに申請に行けばよいか分かりづらいという声を聞いたことがある。水の管理については、縦割り行政の歪みの一つではないか。

(会長)

トイレの設置につきましては、香里園バル開催時には、個人商店のトイレを借りるのは難しいと思うので、バルの参加店や各商業施設のトイレを利用させていただくことになると思います。また、バルのマップにトイレの場所を記載するのも一案かと思います。

もう一点の「水域」に関しては、河川水路は上下水道局ですが、ほかに農業用水路などもあり、様々な関係者が関わっており、難しい問題の一つであると認識しております。

ただ、寝屋川市内として水質は向上しております。その理由として、下水道の整備はもちろん、地域住民による積極的な活動のおかげだと思われれます。今後、産業振興に関する立場としても、このような「縦割り」の体質を意識的に改善していきたいと考えております。

(会員)

商業に関する施策の中で、国の補助金について説明があったが、補足させてほしいのが、今回の補助は平成 25 年度限定の補助制度であり、また商店街の規模が大小あるため、補助金額もそれに比例して均一ではないことを御理解いただきたい。商業施策に対し国からの（大規模な）補助が出たのは、リーマンショック時に商業団体連合会が商品券発行費用の全額補助を受けて以来である。

商業を営む者として、自らの店で利益を確保しながら、市の産業の活性化につなげていければと考えている。

また、「バル事業」については、実行委員会は少ない経費で運営しているため、周知方法等その経費の中で工夫できればよいと思う。トイレの件については、先ほどの話にもあったように、マップに記載することも検討していきたい。

(会長)

商店街の皆様には、時間も限られるなかで積極的に補助金の申請をして頂いている。今回の補助は平成 25 年度の単年度事業であるが、市としても今後国の動向に注目していきたいと考えている。

(会員)

寝屋川市内には他市に比べると駐車場が少ない。また、道路沿いにある植え込みも外見上美しくないものが多いと感じる。市外から人を呼び込むにはそういっ

た点も整備が必要でないか。

(会長)

確かに駐車場及び駐輪場の数は少なく、公共での整備は難しいため、民間に頼っている状況である。新たにまちづくりを進める中では、法的規制の下で公的な駐車スペースは最低限確保していくことになる。また植樹に関しては見苦しいところもあるかもしれないが、例えば池田秦線沿いの事業所の皆様が、積極的に美化運動に取り組んでいただいている。「おもてなし」という視点で、市としても地道に取り組んでいきたい課題である。

(会員)

市道はまだしも、国道や府道の管理がひどい。

(会長)

歩道橋への苦情も多いと聞いており、市は今後も国や府と連携していくとともに、地域によっては市民協働で美化運動を進めていきたい。

(会員)

東部地域の開発に関しては駐車場も完備しているが、市内中心部は不足していると感じる。人が集う場所が少ないと、若い人は車で出かけられる場所へ行ってしまう。滞留する場所を作ってこそ活性化へつながると思うので、例えば商店街へ車で出かけられるよう駐車場を設け、トイレがあり、人が集う広場があった、将来を見据えた視点で産業振興に取り組んでほしい。

(会長)

今は車での移動が当たり前になってきている。商店街は歩いて巡るもの、郊外の大型ショッピングセンターは車で出かける場所。ライフスタイルの変化に市がどこまで対応するかも課題である。今までは都市開発部門のみで担っていたまちづくりも、寝屋川市駅東側のまちづくりの開発時には、事務職員の意見を取り入れるなど、設計の段階から人が集うスペース、賑やかな場所の創出に努めている。

(会員)

商業振興のために近隣の視察へは行っていますか。最近はどこらへ行かれましたか。

(事務局)

職員が各地へ出かけた際には、自発的にその土地の商店街に出向くなど、視察

を行っています。最近では、滋賀県長浜市の黒壁や兵庫県伊丹市の伊丹バルへ出かけ、イベントを開催するためのまちづくりが整備されていることに感銘を受けました。

(会員)

単に店が並んでいるだけでは面白みにも欠けるので、例えば今後の商店街の構想として、発展しているまちづくりの例を参考にする等、「観光都市」を意識した取組ができればよいのではないかと考えています。

(会長)

規制と緩和のバランスが大切だと思う。地元の皆様の「産業振興への前向きな気持ち」に火をつける役割を市が担うべきではないかと考えている。そのためにも普段からのコミュニケーションが大切だと思う。ヒントは日本全国に散らばっている。

(会員)

(他会員の話を受けて) 博多や札幌のラーメン街が賑わっているように、店舗を「集積」させるもの面白いのではないかと考えています。シャッター街ではなく、滞留できる特色ある商店街づくりを目指してはどうか。

### (3) その他

(会長)

他の会員の方、何かご意見ございませんでしょうか。

(会員)

皆様から自分の目の向けていなかった、大きなお話を聞かせていただいてよかったと思うと同時に、昔、大阪に御堂筋ができた時、「広すぎる」と笑い話になったというのを思い出しましたが、(まちづくりには) そういった「思い切った」決断も大切ではないかと思えます。寝屋川市南部に住んでいるため、買い物には大東・四條畷・門真へ出向いているのが実情です。現在地域で「買い物難民」についての調査をし、データを集めています。高齢者になっても交通機関を工夫しながら、上手に買い物をしていきたいです。寝屋川市民である以上、寝屋川市内で買い物がしたいという思いはあります。この会議に参加することで、様々な分野の方から良いお話が聞ければと思っています。

(会長)

この会議では、皆様の取組をお聞かせいただき、お知恵を頂ければと思います。今後情報の周知を行いたい案件があれば、この調整会議の場で印刷物などを配布していただくことも可能です。各学校法人の学生の方に市内で飲食、買い物していただくためにも、若者に寝屋川市の魅力を伝えるにはどうすればよいかを含めて考えていければと思います。

(会員)

先日、産学官連携検討会議の中で報告された「モノづくり企業実態調査」の結果を学校へ持ち帰ったところ、「地域にどんな企業があり、どんな業種の企業が多いのか等全く知らなかったが、地域貢献という点でも、とても有意義な調査である」という意見が出た。当学校の先生がどの業種に対応できるか考えた場合、学科によっては全滅のところもあった。消費者の行動形態が分からなければ、ある地域の商店街の活性化といっても意味がないのではないかな。

また、今後産業振興条例を実体あるものにするには、個別の問題点を集約し、それを解決へ導く目標（年間計画）を定めて、行政・地域など役割分担し、達成へ向けて具体的な計画（目標）に基づいて、取り組んでいかれたらよいのではないかな。PDCAが重要だと思う。

(会長)

「モノづくり実態調査」の結果を受けて、何が現場で必要なのかを商農も含めて把握し、これからの市の施策に活かしていきたいと考えている。また、地域をコーディネートしていくという点では、行政と市民及び事業所で、小学校区単位の地域の課題を地域で解決していこうと、地域協働に取り組んでいる。

(会員)

連絡調整会議に参加している中で、各分野の会員が情報共有し合う目的で、商店街のアーケード、補助金を採択された事業所の見学及び農業の現地見学を年1回程度実施し、課題の把握などを行うのはどうか。異分野方面からアイデアを出し合えば、もっと活性化するのではないかな。

また、当大学はオープンキャンパスを実施しているが、対象は受験生だけでなく、地域の皆さんにも開放し、「大学を知ってもらおう」という機会を設けている。

(会長)

貴重なご提案ありがとうございます。見学会については、特に農業分野は現場を見ていただいたほうが実態も分かると思うので、事務局として次回までに調整を行っていきます。

(会員)

毎年春に桜に関するイベントを実施している。学校として「開かれた学校」を目指して、様々な取組を行っている。今後は、文化財登録（国の登録有形文化財）を行っている学舎見学を一般の方対象に実施することを検討している。先ほどご提案のあった見学会への参加も含めて、これから皆様と産業振興について考えていければと思っております。

(会員)

(商業団体連合会の) 青年部中心に「ねやバーガー」の啓発に取り組んでいる。色々なイベントに出店し、売り上げも上々である。市内産の大葉やレタスといった材料を使っているが、年間を通して販売することは難しい。今後は農業・工業の皆さんの力を借りながら「寝屋川の名産」として、売り出していきたい。

(会長)

農業者はもちろん、まさしく「オール寝屋川」で取り組むことで、ブランドにもなっていくと思う。これからは試食も含めた情報提供ができればと思う。

(事務局)

「ねやバーガー」は市内各イベントにおいて出店されており、今年はエコフェスタにおいて「ねやバーガーコンテスト」を実施する予定である。一般の方に応募作品を試食していただき、投票によってグランプリを決定しており、いずれも盛況である。

(会長)

昨年はそのコンテストに審査員として参加したが、地産地消の推進、商農連携にもつながる。

(会員)

青年部は寝屋川の特産を作りたくて「元祖ねやバーガー」を作ったが、これからはコンテストを含め、様々なジャンルの飲食店でそれぞれの「ねやバーガー」を売り出すことで、「ねやバーガー」を広めていきたいというのが、青年部の思

いである。

(会員)

昨今、地場野菜の人気が高いが、各農協の朝市に出荷する野菜も天候に左右され、作付け時期の関係で量の確保が難しくなっている。11月の農業まつりに出荷する野菜の確保も地場産だけでは難しいのが現状である。毎年1時間ほどですべて売れてしまうほど人気があるので、たくさん出荷するために、作付け計画を思案しているが、天候に左右され厳しい状況である。

(会員)

商工会議所では意見要望活動を国に対して行っている。国の補助については、従前からの要望を現政権で一部実行していただけた。先日北河内地区で商店街交流会があり、「国の補助は継続してもらえないものではないから、それに頼ることなく各商店街が自立していかなければならない」という話が出た。補助金だけではなく、人口及び交流人口を増やすためには、商業工業施策ではなく「まちづくり」も重要であると感じている。しかし行政だけにそれを求めるのではなく、商工農相互に手を取って取り組むべき課題であると認識している。

(会長)

産業振興といっても、まちづくりも含め非常に幅の広い取組である。補助金だけでなく、みんなで取り組むべき施策、寝屋川市が元気になるためにはどうすればよいか等、お気づきのことがあればいつでも事務局までご意見いただきたい。会員から頂いた「フィールドワーク」のような見学会についても前向きに検討していきたい。

(事務局)

次回の連絡調整会議開催時期は、平成26年1月か2月頃を予定しています。案件については、平成26年度の新規施策についてご紹介させていただく予定です。また、会員の皆様の中で周知したい案件があれば、次回会議当日でも構いませんので資料をお持ちいただければ、会員の皆様に配布させていただきます。

(会長)

産業の活性化は、まちの活性化につながります。今後はこの会議を軸に、産業やまちの活性化について考えていければと思っています。

本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。